待宵や寝る鳥も月の為　信州　巌松
雲あくてん休まぬ月見かな　平柳　涼花
名月や瀧水流るる松の風　荒川
松風に音ある月の夜中かな　上毛　柳介
名月や舟から難奥のつゝき夢　上総　金砂
名月の柳につなぐ小舟かな　斎文
植木屋見えしこれハ三日の月　風亭
名月や人のかくろの道の影　雄彦
三日月の影淡しく山の雲　銚子　明易
芦の葉にそよりくゝふの月　信州　越中
月を肩ふかくらし袖の露　亜人
名月や茄下して魚の店　上田　素好
松植て新たしらつる月見かな　奥州　山東
一条入して起されて秋の月　時女
菜種に入るや蘆に菅の月　越後　拳古
澗水にかけもさくめ宵の月　上総　青陽
大空に月のわれをなかく鳥　麦雨
十六夜ハ今くふけぬつもかな　禹儀

琢客をゆて萩なし月の宿　常陸　柳至
影ハいまず月の光りも吉野山　上州　素十
赤松てあろをまなぬ月の影　秀之
栗拾の中よく見ゆる月夜かな　梅尤
行過る雲に見出しぬ二日月　松代　白令
裙着るかこうひ口や秋の月　気光　可酔
置よりもひろきんそゝふの月　錦文
影を見し松植かへて後の月　下毛　究柳
夕月のかけ流切て出漆水　奥州　梅長
影法のいよく丸しゝふの月　梅桂
宵月のうらゝ秋の月夜かな　信州　月㐂
名月や芋ひこらけき硯なこ　立杖　牛山
かけを見をするふ度まず月の留る　梁川　宵月
菊もなく木もなく置しりふの月　秩父　玄書
名月の使ハ来まうり文着　下総　蹊鳥
名月や静にもえる松の構　信州　蛟道